

3. 県有施設詳細調査

3-1. 対象施設等

調査対象施設と開催競技種目案

	施設名	国スポ種目	全スポ種目	備考
県総合運動公園	陸上競技場	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技 	重点施設
	サブグラウンド	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技 	—	
	体育館 メインアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> 卓球 体操競技・新体操・トランポリン ハンドボール その他 	<ul style="list-style-type: none"> 卓球 卓球（サウンドテーブルテニス） 	
	庭球場	<ul style="list-style-type: none"> 硬式テニス・ソフトテニス 	—	重点施設
	自転車競技場	<ul style="list-style-type: none"> 自転車（トラック） 	—	
	水泳プール	<ul style="list-style-type: none"> 水泳 飛び込み アーティスティックスイミング 水球 	—	重点施設
奥武山公園	水泳プール	<ul style="list-style-type: none"> 水泳 飛び込み アーティスティックスイミング 水球 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳 	重点施設
	県立武道館	<ul style="list-style-type: none"> 柔道 剣道 空手道 銃剣道 なぎなた レスリング 	<ul style="list-style-type: none"> ボッチャ 	重点施設
	弓道場	<ul style="list-style-type: none"> 弓道 	—	
	庭球場	<ul style="list-style-type: none"> 硬式テニス・ソフトテニス 	—	重点施設
	クライミング	<ul style="list-style-type: none"> リード・クライミング 	—	※ 本調査対象外とする
その他	空手会館	<ul style="list-style-type: none"> 空手道 	—	
	ライフル射撃場（南城市）	<ul style="list-style-type: none"> ライフル 	—	

3. 県有施設詳細調査

3-2. 水泳プール施設

県総合運動公園水泳プールの施設概要

整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県総合運動公園水泳プールは、「第42回国民体育大会（海邦国体）の開催」（昭和62年）を背景として整備された。 プールが建設されてから長く経っていることで劣化が進み、地中に埋設している配管からの漏水や可動式の屋内プール扉が錆びて動かなくなるなど、安全性・使いやすさの面で課題が生じている。
開催大会	<ul style="list-style-type: none"> 50mプールは第61回沖縄県民体育大会（平成21年度）以降の大会開催は無し

水泳プール位置図



項目	仕様・概要
構造・表層	【屋内25mプール】 本体:RC造 床:タイル 梁・柱:鉄骨造 屋根:鉄骨造 温水対応可
	【屋外50mプール】 本体:RC造 床:タイル
建築・延床面積	延総面積6,182㎡
	【25mプール】(日本水泳連盟公認) 25m×13m 水深1.4m~1.2m 競泳6コース(屋根開閉式) 【50mプール】(日本水泳連盟公認) 50m×23m 水深1.8m~1.4m 競泳9コース(屋外)
建築年	昭和61年(1986年)3月【築40年】
法定耐用年数	処分制限期間15年(2001年) 使用見込み期間30年(2016年)

25mプール



50mプール



奥武山水泳プールの施設概要

整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 昭和58年に建設され、50m競技用プールとして毎年多くの競技会を開催。また日常的に一般県民にも広く利用されていた施設である。しかし、競技用プールとしての不適格状態や施設の老朽化によるひび割れ等があり、危険な状態であったため、平成22年に現位置での全面改築整備工事を行った。 改築では、県民の施設利用の拡大、各種競技会の開催、選手・指導者の育成を主な目的としていた。
開催大会	2010年度（平成22年度）全国高等学校総合体育大会（美ら島沖縄総体2010）

水泳プール位置図



項目	仕様・概要
構造・階数	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 (屋根部分含み3階建て)
建築・延床面積	5,528.66㎡ (内観覧席面積:486.72㎡) 【屋内25mプール】 水深1.35m~1.50m 競泳6コース 【屋外50mプール】 水深2m~2.15m 競泳8コース 【屋外飛び込み】 1m、3m、5m、7.5m、10m 水深5m
観客席数(固定数)	観客席:1,063席 車いす席:6席
建築年	平成22年(2010年)2月(改築)【築16年】
法定耐用年数	40年(26年経過)
耐震性	有
根拠法令等	沖縄県立奥武山総合運動場の設置及び管理に関する条例
総事業費	昭和58年(1983年):不明 平成22年(2010年):2,123,349千円(改築)

25mプール



50mプール



水泳プールの老朽化状況の整理

- 県総合運動公園水泳プールは、県及び指定管理者により継続的に修繕が実施されているものの、躯体・仕上げ・設備の広範囲に老朽化が進行しており、対症的な修繕のみでは対応が難しい状況にある。

■25mプール・50mプールの老朽化状況

項目	県総合運動公園水泳プール	奥武山公園水泳プール
躯体・構造体	✖ 鉄筋腐食によるひび割れ、浮き、剥落、鉄筋露出、屋根・鉄骨部の腐食など、 構造体レベルの劣化が顕著	○ 観客席の錆、手すり支柱の剥離、屋根トラス材の錆等が見られるが、躯体に大きな問題はなし
漏水・ひび割れ	✖ 地下通路側壁、床版、底版等で 漏水・ひび割れ が確認され、詳細調査が必要	○ 一部ひび割れ等は見られるが、県総ほどの漏水被害の報告はない
床・仕上げ・プールサイド	✖ 床タイルの浮き・剥離・亀裂、プールサイドのひび割れ・粗面化など、 利用者安全上の懸念が大きい	○ 部分的な劣化はあるが、床・プールサイドの危険性は県総合ほど大きくない
鉄部・金属部材の腐食	✖ 梁・柱・屋根鉄骨、外周柵、配管・バルブ、ろ過設備等まで 広範囲に腐食が進行	△ 観客席まわり金属部材、手すり、屋根トラス材などに 部分的な錆・腐食
設備の状態	✖ ろ過設備、排水ポンプ、配管・バルブ、給湯・ボイラー、シャワー等で不具合・更新必要箇所が多い。一方で、 継続的に修繕・取替も実施しているが、老朽化の進行が広範囲で、部分修繕では限界が見える	○ 設備関係は 大きな老朽化は確認されず 、濾過器、LED照明、飛込板など計画的更新あり

老朽化の状況

- 県総合運動公園水泳プールは、躯体・構造体の劣化、漏水・ひび割れ、床仕上げの損傷、設備機能の低下など、**老朽化が施設全体に広範囲かつ重度**。継続的な修繕を実施しているものの、部分的な対応では限界が見られる状況である。
- 一方、奥武山公園水泳プールは、部分的な劣化が見られるものの、躯体や設備の健全性は概ね維持されており、**計画的な修繕により継続利用が可能な段階**にある。
- 両施設を比較すると、更新・再整備の必要性及び緊急性は県総合運動公園水泳プールの方が高く、安全確保を前提とした抜本的な改修方針の検討が求められる。

水泳プールのバリアフリー状況の整理

- 奥武山公園水泳プールは主要項目で概ね対応が図られている一方、県総合運動公園水泳プールは未対応項目が多く、特に更衣室からプールまでの動線、便所、エレベーター、観覧席の改善が課題である。

■バリアフリーの状況

分類	チェック項目	県総合運動公園 水泳プール	奥武山公園 水泳プール
1. 敷地内通路・出入口	通路幅120cm以上	△	○
	滑りにくい仕上げ	△	○
	段差なし／スロープあり	×	○
	出入口幅80cm以上	○	○
	自動ドア等で容易に開閉	×	△
2. 廊下・動線	幅120cm以上	△	○
	滑りにくい仕上げ	△	○
	階段・傾斜路前に点状ブロック	×	×
3. 階段・傾斜路	手すり設置	×	○
	勾配1/12以下	△	○
	段鼻色コントラスト	×	○
	滑り止め仕上げ	△	○
	各階停止	×	○
4. エレベーター	出入口幅・籠奥行確保	×	○
	操作盤高さ適正	×	○
	車いす用便房あり	×	○
5. 便所	オストメイト対応便房	×	△
	出入口段差なし	×	○
	手すり・便座配置適切	×	○
6. 駐車場	車いす用区画（幅350cm）	△	○
	出入口近接配置	△	○
7. 案内・標識	バリアフリー案内表示	×	○
	点字・誘導ブロック設置	×	△
8. 客席・観覧席	車いす席確保	×	○
	同伴者席隣接	×	△

バリアフリー状況の評価

- 県総合運動公園水泳プールは、主要動線、便所、エレベーター、観覧環境等に未整備項目が多い。現状のままでは円滑な利用に支障が大きいことから、競技開催や一般利用を見据えた改修が必要である。
- 奥武山公園水泳プールは主要なバリアフリー項目がおおむね整備。案内・誘導や一部付帯設備の補完により、さらなる利便性向上が見込まれる。

資料：沖縄県福祉のまちづくり条例等を参考に作成

競技別の国スポ競技施設基準との適合性整理

- ・【競泳】奥武山はコース数・水温、県総はほぼ全項目で不適合。
- ・【アーティスティックスイミング】奥武山は水深不足とスターティングプラットフォーム、県総は面積・水深が不足。
- ・【水球】両施設ともコート面積は適合するが、奥武山は水温、県総は水温・水深等が不適合。
- ・【飛込】奥武山は適合。

■国スポ施設基準との適合性

競技	国スポ競技施設基準の要件	奥武山	県総
競泳	1. 国内プールAA（国際基準）公認規則に適合	×	×
	2. 長さ50.2M（タッチ板設置する場合）	○	×
	3. 幅25M以上	×	×
	4. 水深2.00M以上	○	×
	5. 水温25°C～28°C	×	×
	6. コース数10レーン	×	×
	7. レーン幅は0と9レーンは2.40m 1～8レーンは2.50m	×	○
	8. プール両幅の余裕0.10m以上の休息棚の幅以上	○	×
	9. 自動審判装置 A 級又は A A 級を常設	○	×
	10. 練習施設/事情が許す限り50Mプールを併設するとし、設置できないときは25mプールでも可	○	○
アーティスティックスイミング	1. 国内基準アーティスティックスイミング競技プール	×	×
	2. 競技区域は最低15.0m×20.0m以上の長方形区域	○	×
	3. 面積中央ゾーン12.0m×12.0m正方形	○	×
	4. 水深2.5m 中央ゾーン3.0m以上	×	×
	5. 水温27°C以上	○	×
	6. プールの水は水底まではっきり見えるよう透明でなければならない	○	○
	7. スターティングプラットフォーム 幅4.0m高さ0.7m（公差±1c m）滑りにくい素材で覆われ速乾性の防水カーペット	×	×
水球	1. 国内基準公認水球プール	×	×
	2. 男子面積 長辺33.3m（ゴールライン間30.0m） 短辺20.0	○	○
	3. 女子面積 長辺28.32m（ゴールライン間25.0m） 短辺20.0m	○	○
	4. 水深 1.8m以上	○	×
	5. 水温 25°C～27°C	×	×
	6. バウンダーライン：ゴール後方0.30m位置設置	○	×
	7. ゴールライン：壁から1.66m以上	○	×
飛込	1. 国内基準飛込みプール	○	×
	2. 飛込台 5m、7.5m、10m、各一基	○	×
	3. 水深10m飛込台の基線上の水深5.00m	○	×
	4. 水温28°C以上	○	○
	5. プールの方向が屋外プールにあっては飛板及び飛込台は北向きに設置する。	○	×
	6. 泡立て装置の設置	○	×
	7. 練習施設として1m飛板を競技用とは別に2基設置	○	×
	8. 飛込練習台として異なる側に助走及び踏切練習用として最低一基設置。	○	×

競泳施設基準(国内プールAA公認)の適合性

- ・ 奥武山はレーン数・観客席・水温・屋内性・自動審判装置などで不適合。
- ・ 県総合はほぼ全ての主要基準・詳細基準で不適合。老朽化もあり部分改修では対応不可。

■競泳施設基準(国内プールAA公認)との適合性

区分	項目	基準(国内基準AA)	奥武山	県総合
主要	レーン数	10レーン	×(8レーン)	×(9レーン)
	レーン幅	2.50 m	○	○
	水深	2.0 m 以上(2.5 m以上求められる場合あり)	○(2.0~2.15m)	×(1.4~1.8m)
	プール長	タッチ板両側設置時50.02 m(過短不可)	○(50.2m)	×
	水温	25℃以上28℃以下	×(調整不可)	×(調整不可)
	屋内外種別	原則屋内(仮設は除く)	×(屋外)	×(屋外)
	観客席	仮設含め2,500席以上	×(1,063席)	×(なし)
	練習施設(併設)	50 mまたは25 mプールを1か所以上併設	○(25mプール併設)	×(なし)
	駐車場	200台以上確保望ましい	○(約400台)	○(公園全体で確保可能)
	自動審判装置	A級またはAA級常設	×	×
詳細	照明(屋内)	水面上1mで600ルクス以上	×(屋外、夜間不足)	×(屋外、老朽化)
	スタート台設置水深	端壁前方6.0mまで1.35m未満では設置不可	○(2.0m以上確保)	×(浅い部分あり)
	スタート台の寸法	高さ0.50~0.75m、上面0.50×0.50m以上	○	○
	端壁の構造	上端から水面下0.80mまで滑り止め仕上げ休息だなは水面下1.10m以深に設置可	○	×
	背泳ぎ用標識	両端壁から5.0m地点に旗ロープ設置可	○	×
	不正出発防止用ロープ	スタート台前方15.0mにロープ設置	○	×
	飛込プールとの間隔	屋内8m以上(望ま10m)／屋外10m以上	×(近接)	×

資料：(公財)日本水泳連盟公認プール施設要領2025

公認アーティスティックスイミングプール(国内基準)の適合性

- ・ 奥武山は「面積は適合」するが「水深・水温・設備」で大幅に不足。
- ・ 県総合は「水質以外ほぼ不適合」で、アーティスティックスイミング会場としての活用は難しい。

■公認アーティスティックスイミングプール(国内基準)との適合性

項目	基準(国内)	奥武山	県総合
フィギュアー競技エリア	ルーティン競技エリアと同じエリア及び水深を使用可能	○(ルーティンエリア共用)	×
ルーティン競技エリア	15.00 m × 20.00 m 以上の水域が必要	○	×
水深	上記エリアのうち、12.00 m × 12.00 m は水深 3.00 m 以上。残りの水域の水深は最低 2.50 m 必要。 (注:水深 2.00 m 以上の場合は、壁際 2.00 m から壁から最大 1.2 m の地点で最深となるよう傾斜していてもよい)	× (2.0~2.15 m)	× (最大1.8 m)
水の状態	プールの底が見えるように十分透明でなければならない	○	○
水温	27℃以上でなければならない	×	×
照明	水面上 1 m の高さで600 ルクス以上。自然光・人工照明は、ジャッジプラットフォーム及びスターティングプラットフォームのまぶしさを防ぐために制御できるようにする必要がある。	×	×
スターティングプラットフォーム	最小高さは0.50 m 以上(できれば 0.70 m が望ましい)。表面はすべりにくい素材(速乾性の防水カーペットを推奨)で覆う必要がある。	×	×
レーンマーキング	床面にレーンマーキングがない場合、プールの長さに沿って一方向の目立つ線を複数ひかなければならない。	○	×
練習用ウォームアッププール	最低25 m × 25 m、または30 m × 20 mとし、水深は 3 m でなければなりません。適切な音響再生システムが利用可能である必要があります。	×(水深不足)	×
ドライランド	マットを備えたドライランドトレーニングストレッチエリアを選手のために用意しなければなりません。	×	×
音響装置	競技用プールに水中スピーカー 4 台、練習用プールに水中スピーカー 4 台を用意する必要があります。サウンドレベルは平均 90 デシベル、瞬間最高 100 デシベルを超えないようにする必要があります。	×	×
ジャッジ台	プール両側に配置し、机と椅子を備え、高さは最低 0.6 m とすること。ジャッジ台はプールの端から2 m 以内とする必要があります。	×	×
カメラ監視システム	全てのセッションのビデオ記録、テクニカルコントローラー用 AQUA 公認ビデオリプレイシステム(カメラ 2~4 台)、及び水中動作(底を含む)を監視する水中カメラが必要です。	×	×

資料：(公財)日本水泳連盟公認プール施設要領2025

公認水球競技用プール(国内基準)の適合性

- ・ 奥武山はフィールド寸法は満たすが、水深・水温・照明・屋外環境で不適合。
- ・ 県総合はフィールド寸法は確保できるが、水深不足・水温管理不可・照明不備で基準未達。
- ・ 両施設とも「水深不足」「水温調整困難」「照明基準未達」「屋外プールであること」が主な不適合要因。

■公認水球競技用プール(国内基準)との適合性

項目	基準(国内)	奥武山	県総合
フィールド(競技エリア)の形状	長方形	○	○
フィールドの大きさ(ゴールライン間)	男子:20.00 m以上30.00 m以下 女子:20.00 m以上25.00 m以下	○	○
プール幅	男女とも10.00 m以上20.00 m以下	○	○
フィールド全体(最大サイズ)	男子:30.60 m × 20.00 m 女子:25.60 m × 20.00 m	○	○
水深	フィールド内全面1.80 m以上(国際基準では3.00 m推奨)	○	×(最大1.8 m未満)
水温	25℃以上27℃以下	×(調整不可)	×(調整不可)
照明	水面上1 mで600ルクス以上	×(屋外、夜間照明不足)	×(屋外、老朽化で不十分)
屋内プールの天井高さ	特に下限なし(国際基準7.00 m以上)	×(屋外)	×(屋外)

資料：(公財)日本水泳連盟公認プール施設要領2025

飛込競技会用プール(国内基準)の適合性

- ・ 奥武山は基本的な基準は概ね適合している。
- ・ 不足要素である「掘込式足場」については、今後の検討課題とする。
- ・ ドライランドについては、仮設対応にて検討を行う。

■ 飛込競技会用プール(国内基準)との適合性

項目	基準 (国内基準飛込プール)	奥武山	県総合
飛板 (スプリングボード)	1m・3m 各2基	○	-
固定台 (プラットフォーム)	5m・7.5m・10m 各1基	○	-
水深	10m基線で 5.00m (飛込用深水)	○	-
水温	28℃以上	○	-
波立て (攪拌) 装置	飛込施設下部に波立て装置必須	○ (過年度調査結果)	-
プールの方向	屋外は北向き設置	○ (北北東)	-
練習用飛板	1m練習用 2基	○	-
助走・踏切練習台	固定台と別側に最低1基	○	-
プールサイド奥行	5m以上	○	-
安全足場 (側壁0.6-0.7m)	掘込式足場を設置	× (未設置)	-
退水はしご (掘込式)	あり	○	-
照明	水面上1mで600ルクス以上 (屋内)	○ (LED更新済み)	-
採光	眩輝対策必要 (屋内)	- (屋外のため対象外)	-
音響設備	飛込用と競泳用が分離可能	× (分離不可)	-
表示装置	得点・氏名表示可能	× (設備なし)	-
ジャッジ台	11台 (2m以上)	○	-
ドライランド	設置が望ましい	× (未設置)	-
記録室・役員室	プールサイド面し配置	○	-

資料：(公財)日本水泳連盟公認プール施設要領2025

全スポ競泳(25m短水路競技)の適合性

- ・ 奥武山プールは動線やトイレ、更衣室等の面で県総合運動公園プールよりは適合性が高いが、全スポ開催が例年10月下旬であることを踏まえ、全天候に対応できる屋内施設の検討が必要である。
- ・ 両施設とも観客席、水温、照明に課題があり、対応検討が必要である。

■全スポ競泳(25m短水路競技)との適合性

区分	県総合運動公園プール	評価	奥武山プール	評価
選手更衣室（バリアフリー含む）	動線・幅不足、ユニバーサル対応困難	×	バリアフリー対応は概ね可能、規模は課題	○
観客トイレ（多目的含む）	多目的トイレの整備が困難。老朽化も影響	×	多目的トイレの条件を満たしやすい	○
選手動線（バリアフリー含む）	スロープ勾配・段差の改善が困難	×	動線は確保しやすく、改善も可能	○
審判・役員動線	動線分離のための改修が難しい	×	平面構成がシンプルで動線確保しやすい	○
観客席（席数）	常設席なし	×	常設席なし	×
観客動線（バリアフリー含む）	バリアフリー動線の確保が難しい	×	通路幅など課題はあるが運用による整備が可能	○
医務室・救護室	仮設対応を想定	○	仮設対応を想定	○
ドーピング検査室	仮設対応を想定	○	仮設対応を想定	○
公式計時（短水路仕様）	仮設対応を想定	○	仮設対応を想定	○
水温管理	高水温（30℃超）	×	高水温（30℃超）	×
照明	屋外・照度基準未達。	×	仮設照明の設置スペース不足	×

(参考)現況施設の改修における課題

- ・ 奥武山・県総合ともに「10レーン化」「幅25m化」は物理的に不可能であり、その他の根本的な基準不適合（水温・屋根・観客席）の解決が困難。
- ・ 県総合は老朽化が著しく、全面改修または新設対応が求められている。

■現状の施設改修における課題

課題		県総合運動公園 水泳プール		奥武山公園 水泳プール	
国スポ基準 の対応	コース数10レーン への増設	×	・ 不可 ・ 弾力運用で対応可能かは調整が必要(R1年以降の事例なし)	×	・ 不可 ・ 弾力運用で対応可能かは調整が必要(R1年以降の事例なし)
	コース幅の増築	×	・ 不可 ・ 弾力運用で対応可能かは調整が必要(R1年以降の事例なし)	×	・ 不可 ・ 弾力運用で対応可能かは調整が必要(R1年以降の事例なし)
	水深拡張	×	・ 拡張不可	×	・ 拡張不可
	水温調整	×	・ 冷却システムの導入が必要。完全屋外のため、十分な温度低下効果を発揮するには複数の機器の設置が必要とされ設置場所の整備や電力供給能力の強化等も必要となる。また維持費が増大する。	×	・ 冷却システムの導入が必要。完全屋外のため、十分な温度低下効果を発揮するには複数の機器の設置が必要とされ設置場所の整備や電力供給能力の強化等も必要となる。また維持費が増大する。
	屋根の整備	×	・ 仮設屋根の支柱をプールサイドに立てることは不可。また仮設の屋根が水温を下げるのにどれだけ効果的か不明。	×	・ 仮設屋根の支柱の設置が困難。また、プールサイド下は管理用通路及びボイラー室などのある空洞部分となっており、荷重をかけるのも困難。
	観客席の増設	×	・ プールサイドが狭く仮設観客席を設置するスペースがない。 ・ 老朽化により常設観客席の整備も困難。	×	・ 仮設含め観客席が約2500席必要となる。仮設観客席のスペースとして、プールサイド及び3階のバルコニー部分があげられるが、必要数の観客席を設けるスペースとしては不足。
老朽化 の対応	老朽化対応	×	・ 全体的に老朽化がひどく、個別の長寿命化改修は多岐にわたり非効率。	○	・ 観客席や手すりの金属部の腐食がみられるが個別の修繕が可能。
大会運営 の対応	運営対応	×	・ 大会運営に必要な導線確保、観客・選手の動線分離が困難。 ・ 選手、関係者等の大会運営に必要な諸室が不足。プールサイドが狭く仮設テントでの対応	△	・ 観客・選手の動線分離は可能。 ・ 選手、関係者等の大会運営に必要な諸室が不足。プールサイドに仮設テントの設置ではする場合、観客席の増設と合わせると施設内ではスペースが不足している。
バリアフリー の対応	バリアフリー	×	・ 更衣室が管理棟にあり、50Mプールへの導線の確保がなされないなど、不適合部分が多く、修繕には大規模改修が必要。	○	・ 25mプールに多目的更衣室が整備されており25メートルプールでの競技に支障なし。50mプールへもエレベータがあり移動可能。観客席は車いすスペースあり。
その他	全面改修における 国庫返還における 改修における課題	○	・ 昭和62年海邦国体に向けて建設。財産処分制限期間終了しているため全面改修可能	△	・ 2010年の全国高校総体にむけ国庫補助を受けて全面改修を行っており、2040年まで財産処分制限期間にあるため国庫返還額が増大

水泳プール施設の改修について

- 屋内公認プールの整備は、国スポ対応のためだけではなく、県民の安全な通年利用、競技力向上、老朽化対策、バリアフリー向上を同時に実現するための基盤整備である。
- 気候変動と施設老朽化が進む現状として、将来を見据えた整備方針の決定が必要である。

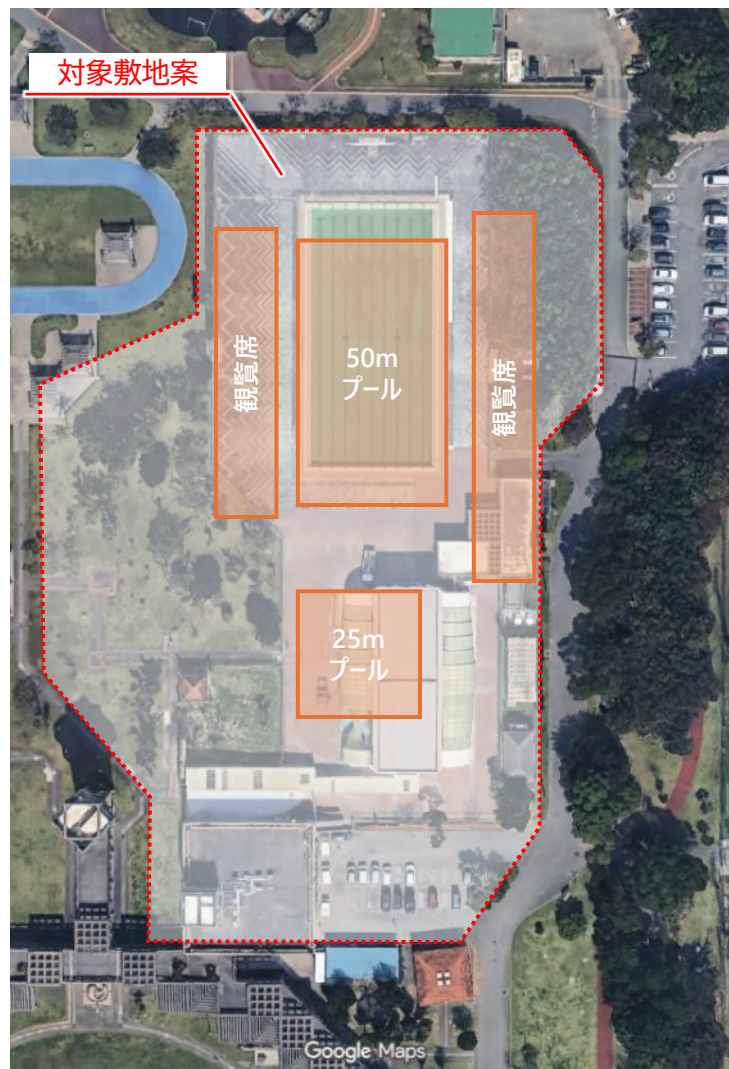
■県有水泳プール施設が直面する課題

気候変動により、屋外プールでの安全・快適な利用が難しい	<ul style="list-style-type: none">• 夏季は水温上昇が常態化し、利用者の熱中症リスクが高まっている。実際に熱中症事例もあり。• 冬季は水温低下による利用制約が大きく、通年での安定利用ができない。• 大雨、落雷に伴う競技の一時中断の事例もある。
県民が通年利用できる公共サービスが不足している	<ul style="list-style-type: none">• 県営プールの温水施設は、老朽化した県総25mプールのみ。• 大会や専用利用と重なると、冬場の一般利用が制限される。• 高齢者、幼児、障がいのある方など、幅広い県民が安全・快適に利用できる環境が十分でない。• 人口100万人以上の県で屋内プールがない県は少数。
県内に屋内公認長水路がなく、競技開催・競技力向上に制約がある	<ul style="list-style-type: none">• 県営プールには公認の屋内長水路がないため、冬場に県内で長水路大会を開催できない。• 県外大会への参加は毎回空路移動で、選手・指導者・保護者の負担大きい。• 練習環境と大会環境が確保できず、競技力向上の面でも不利な状況にある。
既存施設の老朽化とバリアフリー不足が進んでいる	<ul style="list-style-type: none">• 県総は昭和56年の海邦国体を契機に整備された施設であり、老朽化が進行。• 設備不具合が多く、今後も維持更新コストの増加が見込まれる。• ユニバーサルデザインへの対応が不十分で、バリアフリー面でも現代的な水準を満たしていない。
2034年国スポ開催に向けた準備期間に余裕がない	<ul style="list-style-type: none">• 2034年開催の国スポ水泳競技会場として、県内には施設基準を満たす施設がない。• 新たな屋内公認プールの整備には、構想・設計・財源調整・整備工事に加え、運営体制の構築や競技環境の検証にも一定の期間を要する。• このため、2034年開催を見据えると、整備判断を先送りできる時間的余裕は小さい。

国内プールAA公認に必要な敷地範囲の検討

- 県総における国内プールAA公認設置に必要な敷地範囲を以下のように想定する

■改修の対象敷地(案)



■国内プールAAプールへの改修(案)

区分	項目	内容
導入機能(競技要件に関わる中核機能)	競泳用プール	10レーン、レーン幅2.5m、水深2.5m以上、50mプール(可動壁・可動床を検討)
	観客席	固定+仮設で2,500席以上、バリアフリー対応(車いす席含む)
	スタート台・ターン壁	最新規格に準拠、タイム計測システムと連動
	電気計時・大型スクリーン	自動計測機器、電光掲示板、大型映像配信設備
付帯設備(運営・観客サービス・選手サポート)	選手関連施設	更衣室・シャワー室拡充、25mウォームアッププール、ドーピング検査室、メディカルルーム
	大会運営関連	役員控室、審判室、メディア対応スペース、放送・音響・記録運営室
	観客サービス	ロビー・休憩スペース、売店、トイレ多目的化・収容力強化
	駐車場	周辺含め200台以上を確保
	建築機能	原則屋内化、空調・除湿設備、太陽光発電・ZEB対応など省エネ設計

改築の概算事業費(案)

- 県総改修の概算事業費（案）を以下の通り想定する。

■改修施設規模の考え方(案)

項目	設定の考え方	参考事例
敷地面積	12,800㎡ 駐車場は一部のみであり、事例施設と比較すると、敷地面積は建築面積に対して3,000～4,000㎡大きくなるものと考えられる。	パーソルアクアパーク宮崎（宮崎県） 敷地面積：約19,783㎡ 建築面積：10,697.81㎡ 延床面積：14,265.33㎡
建築面積	9,400㎡ 敷地に対して建築が占める割合を大きく確保できる計画条件である。	インフロニア草津アクアティクスセンター（滋賀県草津市） 敷地面積：約13,700㎡ 建築面積：8,539.2㎡ 延床面積：14,746.0㎡
延床面積	14,000㎡ 宮崎県「パーソルアクアパーク宮崎」と同等の機能導入を想定しており、同施設の延床面積を参考値として設定する。	

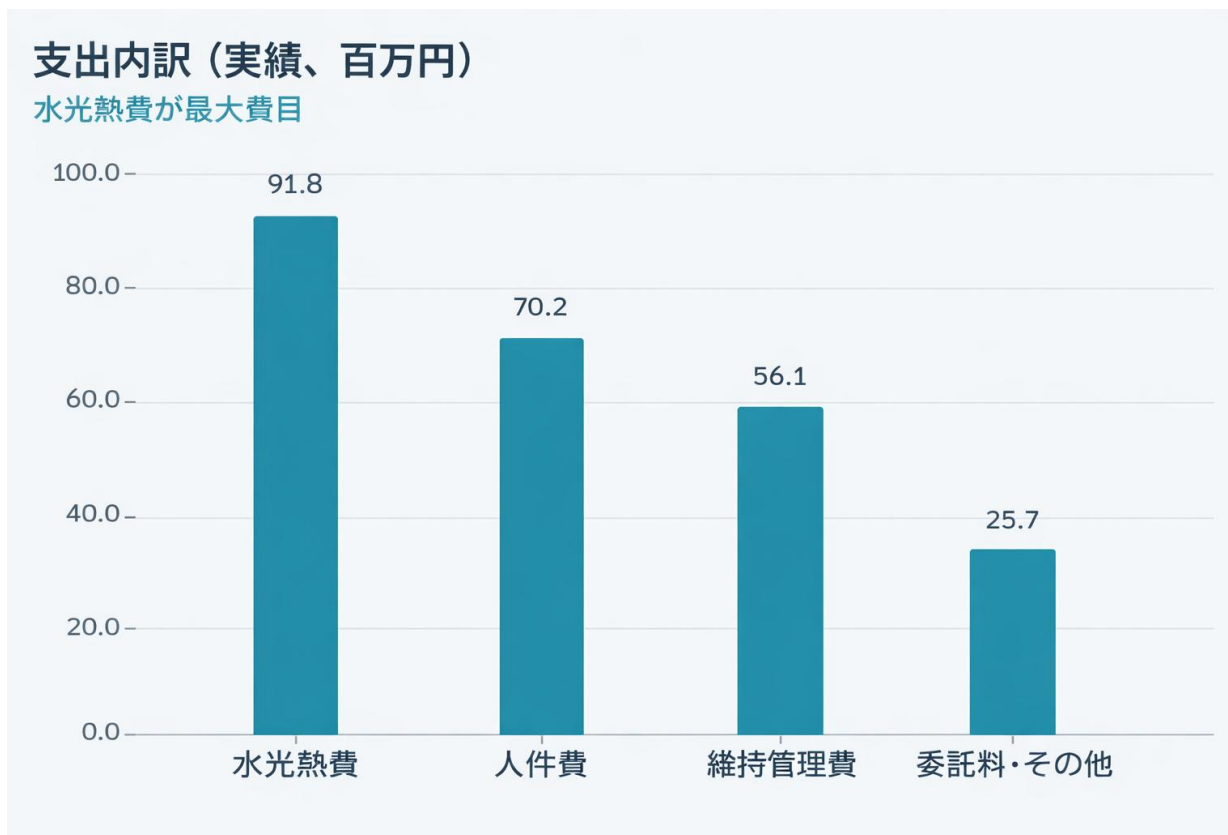
■改修の概算事業費(案)

工事区分		概算費用（千円）	㎡単価等	備考
既存解体	解体工事費	935,603	151.3（千円/㎡）	・旧草津市立ロクハ公園プールの解体費：約4億円 （延床面積：2,643.74㎡、建築面積：2,761.02㎡） ・県総既存プール施設：延床面積6,182㎡
	工事費（上昇分）	261,969	28%	算定時点（2025年）から建設着工予定（2032年）までの上昇率（28%）を国交省建築工事デフレーターから推計
	①解体工事費 計	1,197,572		
新設整備	設計・工事費	9,617,946	687.0（千円/㎡）	パーソルアクアパーク宮崎：約98億円 インフロニア草津アクアティクスセンター：約98億円
	工事費（上昇分）	2,693,025	28%	算定時点（2025年）から建設着工予定（2032年）までの上昇率（28%）を国交省建築工事デフレーターから推計
	②建設工事費 計	12,310,971		
概算事業費 合計（①、②の合計）		13,508,543		上記①、②の合計

※概算費用は現時点の条件に基づく試算であり、実勢価格を反映したNSBPI（日建設計標準建築費指数等）を採用した場合は、費用がさらに上昇する可能性がある。

維持管理費の事例

- SAGAアクアの事例では、年間利用者数7.1万人規模に対して維持管理・運営費は約2.44億円、利用料金収入は約3,185万円となっている。
- 特に水光熱費が費用増加の大きな要因となっている。プール施設では、加温・ろ過・換水等に伴うエネルギーコストの影響を強く受けていることがわかる。



資料：SAGAサンライズパーク事業報告書R6.6 (株)SAGAサンシャインフォレスト

国庫活用の事例

- 社会資本整備総合交付金の主な想定メニューは、都市公園・緑地等事業のうち「国家的関連事業開催に向けた整備」「PFI事業による整備」「都市公園ストック集約・再編」である。
- 特に、PFI事業による国スポ・全スポ会場の運動施設整備は重点配分対象となっている。
- 一方で、緑の広域計画／緑の基本計画の策定状況や、老朽化対策では長寿命化計画・個別施設計画との整合が重要となる。また、老朽化更新・UD化を含む場合は、「防災・安全交付金」の活用可能性もある。
- 新潟県や宮崎県などは「学校施設環境改善交付金」を活用している。

■ 他県の国庫補助活用事例

都道府県	施設名	総事業費	主な国庫補助
鹿児島県	鹿児島市新鴨池公園水泳プール	約77億円(建設費)	・スポーツ振興くじ助成金 ・社会資本整備総合交付金 ・合併特例債
佐賀県	SAGAアクア	約115億円	国庫補助は限定的の可能性あり(資料は見当たらない)
滋賀県	インフロニア草津アクアティクスセンター	約155億円(うち整備費約106億円)	・都市構造再編集中支援事業費補助金
青森県	新青森県総合運動公園水泳場	約192.9億円(PFI全体、うち整備費約77億円)	・社会資本整備総合交付金 ・重点配分(国スポ)
栃木県	総合スポーツゾーン東エリア整備運営事業	約316億円	・社会資本整備総合交付金
新潟県	長岡屋内総合プール(仮称)整備・運営事業	約113億円	・安全・安心な学校づくり交付金
宮崎県	県プール整備事業	約156億円	・学校施設環境改善交付金 ・重点配分(国スポ)
群馬県	群馬県立敷島公園新水泳場整備運営事業	約231億円	・社会資本整備総合交付金 ・重点配分(国スポ) ・防災・安全交付金

工程スケジュールの検討

- 従来方式（分離発注）は、安全かつ確実に事業を進められる反面、年度ごとに契約手続きを行う必要があるため、手続きに要する時間的ロスが大きい。
- PPP/PFI方式は、事業者選定や入札状況によっては遅延のリスクがある。

■工程スケジュール(従来方式(分離発注))

作業項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本計画	■								
国庫申請		■							
基本設計・実施設計		■	■						
各種手続き等			■						
解体・施工				■	■	■	■		
大会リハーサル								●	
国スポ開催									●

■工程スケジュール(PPP/PFI方式(DB/DBO方式含む))

作業項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本計画・導入可能性調査	■								
国庫申請		■							
事業者選定		■	■	■					
基本・実施設計				■	■	■			
各種手続き等					■				
解体・施工					■	■	■		
大会リハーサル								●	
国スポ開催									●

備考

1)各種手続き等の内訳想定

- ・建築確認申請
- ・工作物申請(擁壁・鉄塔等がある場合)
- ・構造適合性判定申請
- ・省エネルギー適合性判定申請
- ・福祉のまちづくり条例認定申請
- ・バリアフリー法認定申請

2)解体・施工の期間想定

- ・解体:10カ月想定(アスベスト対応を考慮)
- ・施工:24カ月想定(滋賀、宮崎を参考)

PFI方式導入のメリット・デメリット

- PFI方式は、導入手続に時間を要するものの、民間ノウハウを活かしながら、責任の明確化、運営しやすさ、将来コストへの配慮、財政負担の平準化を図れる点に強みがある。
- 県総合運動公園でPFIを導入する場合、一般的なPFIのメリットがある一方で、都市公園全体の管理とプール単体の事業運営が分かれることによる固有の課題に留意が必要である。

■従来手法とPFI方式の比較（○メリット、▲デメリット）

項目	従来手法	PFI手法
事業期間の短さ	○ 着工までの期間が短く、事業の各段階における工程の見直しが反映されやすい。	▲ 事業化までに法的手続きを経る必要があるため、時間がかかる。
施設における問題発生時の対応	▲ 問題が整備に起因するものか、維持管理・運営に起因するものか判別できない可能性がある。	○ 施設に問題が生じた場合の責任の所在が明確である。
運営のしやすさや将来的な費用への考慮	▲ 業務ごとの分離発注であるため、PFIと比較すると建設費を考慮した設計や運営費を考慮した設計・建設、また、運営しやすさを考慮した設計・建設とならない可能性がある。 ▲ 将来における維持管理費・運営費の上昇が懸念される。	○ 設計・建設・運営の業務が一括発注されている。そのため、建設費を考慮した設計、運営費を考慮した設計・建設、運営しやすさを考慮した設計・建設が期待できる。 ○ 将来の運営費をほぼ確定することが可能となる。
民間事業者による自由提案事業の実施	▲ 民間事業者の自由提案事業等は、整備された施設機能の範囲内に限られる。	○ 施設の設計・整備の段階から民間事業者の自由提案事業等に必要機能付加等を考慮することが可能。
財政負担の平準化	▲ 財政負担の平準化は図れない。	○ 財政負担の平準化を図ることができる。

■県総合運動公園水泳プールでPFIを導入する場合の課題

観点	課題内容	留意事項
管理主体の分離	• 公園全体の指定管理者と、プールPFI事業者が別となる可能性がある	• 受付・予約・料金・案内等が分かれ、利用者サービスが分断されるおそれがある
役割分担・責任	• 維持管理・設備管理・警備・清掃等の業務範囲が重複又は不明確化する可能性がある	• 不具合・事故時の初動対応や責任分担をあらかじめ明確化する必要がある
大会運営時の調整	• 国スポ等の大規模利用時に、公園側とPFI側で調整窓口が二重化する可能性がある	• 自治体側に統括調整機能を置き、競技団体を含めた一元的な運営体制が必要となる
利用者利便性	• 施設ごとに運営ルールや申込方法が異なると、利用者に分かりにくい	• 一体運営と見えるよう、共通ルールや統一的な案内の工夫が必要である
契約・財政構造	• 指定管理とPFIで契約期間や費用負担の考え方が異なる	• 更新時期のずれや負担区分の複雑化を避けるため、長期的な役割整理が必要である

3. 県有施設詳細調査

3-3. テニス場

県総合運動公園庭球場の施設概要

整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 本施設は「第42回国民体育大会（海邦国体・1987年）」にてソフトテニス競技の主会場として整備された。 県内の競技者が全国レベルの大会を経験できる環境を整備し、青少年の育成と競技力向上を目的として建設。県民の生涯スポーツ利用や健康増進にも寄与する施設としても位置づけ。
開催大会	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度（2010年）全国高等学校総合体育大会（美ら島沖縄総体）の開催 上記大会時にコートサーフェス補修、照明設備更新、観客席改修などを実施

水泳プール位置図



項目	仕様・概要
敷地面積	約13,400㎡ コート・照明・外構含む庭球場全体
構造・階数	運営棟：鉄筋コンクリート造、2階建 クラブハウス：鉄筋コンクリート造、1階建
延床面積	運営棟：約247.19㎡ 受付・事務室・更衣室・トイレ クラブハウス：約354㎡ 受付・トイレ・バリアフリートイレ・シャワー
表層	全天候型砂入り人工芝舗装 うち1面センターコート 夜間照明 投光機8基（コート分）
面数	オムニコート16面 （平成21年にクレ→オムニ改修）
照度	242ルクス
観客席数（固定数）	センターコートに長椅子タイプ席有り 北側コートに座れる段差有り
建築年	運営棟：平成3（1991年）【築35年】 クラブハウス：昭和60（1985年）【築41年】
法定耐用年数	建物50年、照明・フェンス15年、サーフェス10～15年
耐震性	新耐震基準（昭和56年施行）以降建設、耐震診断未実施
根拠法令等	建築基準法、法人税法施行令別表第一
総事業費	約2.5～3.0億円（全体）

奥武山公園庭球場の施設概要

整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 昭和59年（1984年）に奥武山公園庭球場が開場し、全天候型ハードコートを整備。 昭和61年（1986年）にクレートを増設し、計13面（ハード5・クレ-8）体制となった。海邦国体（1987年）では競技会場として使用。 平成16年（2004年）にクレートートを砂入り人工芝（オムニコート）へ全面改修した。
開催大会	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年（2024年）全日本大学ソフトテニス選手権大会等、各種大会を開催

項目	仕様・概要
敷地面積	12,816㎡
構造・階数	管理棟：鉄筋コンクリート造・2階建て
建築・延床面積	157㎡・330㎡
表層	砂入り人工芝
面数	オムニコート13面
照度	242
観客席数（固定数）	なし
建築年	昭和59年（1984年）【築41年】
法定耐用年数	60年
耐震性	有
根拠法令等	沖縄県立奥武山総合運動場の設置及び管理に関する条例
総事業費	昭和59年（1984年）：45,147千円（国庫：8,520千円） 昭和61年（1986年）：83,060千円（国庫：17,040千円） 平成15年（2003年）：149,413千円 平成22年（2010年）：54,288千円（委託料1,943千円+工事請負費52,345千円） 令和元年度（2019年度）：110,460千円



テニス競技(国スポ施設基準)の適合性

- ・ 県総合はコート数、コートサーフェス、付帯設備等で不適合が多い。管理棟も改修が必要。
- ・ 奥武山はサブ会場として補完可能だが、コートサーフェス、屋内なし、観客席なしで不適合。機能改善と仮設対応が前提。

■テニス競技(国スポ)の適合性不足要素の状況

評価項目	国スポ施設基準（出典：施設基準に関する細則）	県総合運動公園庭球場	奥武山公園庭球場
コート数・会場地	1会場、最低20面とする 2会場に分かれる場合は最低24面とする（主会場は最低16面） 練習会場はできる限り近接とし、10面程度とする 2～3会場に分かれてもよい	○（主会場16面で2会場に分かれる場合は可）	△（漫湖公園と合わせて23面）
コート配置・大きさ	1ブロック2～4面、見通し確保 コート間5m以上、BL～フェンス6.4m以上	△（概ね良好だが旧設計で一部未確認）	○（概ね良好）
コートサーフェス	主会場は全天候型、少年はハード推奨	△（砂入り人工芝のみ）	△（砂入り人工芝のみ）
屋内コート	荒天・皇室来場に備え3～4面設置すること	×（なし）	×（なし）
屋内コート天井高	天井9m以上	△（レクドーム：砂入り人工芝8面）	－
コート照明設備	全面設置が基本（最低4～8面でも可） コートの照度はコート面から1mの高さで500lx以上を推奨	△（照明あり・照度不足）	△（照明あり・照度不足）
コートフェンス	コート周囲には防球ネットを設ける 高さはバック4m／サイド3m、色はグリーン推奨 ボールが跳ね返らない構造が望ましく必要に応じて目隠し用シートを取り付ける	×（老朽化・錆あり）	△（改修履歴あるが一部劣化）
審判台	地面から座面まで182～244cm	△（簡易設置、大会対応）	△（同左）
スコアボード	都道府県名・スコア表示、観客席が両側にある場合は2台必要	△（簡易設置）	△（簡易設置）
その他施設・設備	管理棟・控室・救護室・放送設備・観客席等必須	×（管理棟狭小・冷房なし・救護室不足）	×（老朽化・救護室なし・観客席なし）

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、（公財）日本テニス協会「国民スポーツ大会テニス競技の施設基準に関する細則」から抜粋

テニス競技(国際大会)の適合性

- ・ 県総合と奥武山の両施設とも、国際大会推奨寸法に対し、コート間隔及びサイド・バックの距離が不足している。

■テニス競技(国際大会)の適合性不足要素の状況

評価項目	国際大会推奨基準（次項参照）	県総合運動公園庭球場	奥武山公園庭球場
コート配置・寸法	1面あたり：長辺36.6m以上（公式戦40.23m以上）短辺18.29m以上（公式戦20.11m以上）	×（長辺約43mに3面→1面あたり約14m幅で不足）	×（長辺約48mに4面→1面あたり約12m幅で大幅不足）
コート間隔（隣接余裕）	サイド間 3.66m以上（公式戦4.57m以上） エンド間 6.4m以上（公式戦8.23m以上）	×（コート間約6.0m／サイド間約3.0mで不足）	×（コート間約5.0m／サイド間約3.0mで不足）
安全距離・フェンス	サイド・バックともにフェンス距離十分確保（バック4.57m以上）	△（バック距離不足・困障固定式）	×（バック側狭小・安全距離確保困難）
インドアコートの天井高	ITF大会：9m（デビスカップのファイナル予選以上は12m） ATPチャレンジャー：9.14m ATPツアー：12.19m	○（レクドーム：建物高さ10m～28.6m）	－

ソフトテニス競技における県有施設の適合性

- ・ 県総はコート数は基準を満たすが、「アウトコート寸法・付帯施設・メインコート機能」で不十分。部分適合が多く、改修による補強が必要。
- ・ 奥武山はコート数が不足し、メインコート要件も未充足。サブ会場としての利用は可能だが、基準充足には不適合が多い。

■ソフトテニス競技の適合性不足要素の状況

評価項目	ソフトテニス競技の施設基準	県総合運動公園庭球場(16面)	奥武山公園庭球場(13面)
コート数・会場地	規定16面が必要、2会場に分かれて実施可	○(16面で基準充足)	△(2会場に分かれても実施可)
ソフトテニス場の構成	コート・アウトコート・ネット・審判台等を整備フェンス・ベンチ・スコアボード・観客席・控室等が必要	△(基本構成は整備、付帯施設不足)	△(基本構成は整備、付帯施設不足)
コートの大きさ	23.77m×10.97m、ライン幅5～6cm(ベースライン5～10cm)	○(概ね適合)	○(概ね適合)
アウトコート	BL後方8m以上、SL外側6m以上、隣接間隔5m以上	△(古い設計で不足の可能性あり)	△(同左)
コートサーフェス	屋外はクレー・砂入り人工芝・全天候型ケミカル等	○(砂入り人工芝)	○(砂入り人工芝)
ネットポスト	直径7.5～15cm、高さ1.07m、間隔12.80m	○(概ね適合)	○(概ね適合)
審判台	座席高さ1.50m、ポストから60cmに設置	△(簡易型、固定に課題あり)	△(同左)
メインコート	16面のうち1面を独立させ、観客席を備える	○(独立メインコート・観客席あり)	×(独立メインコート・観客席なし)

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、（公財）日本ソフトテニス連盟「競技規則」から抜粋

テニス競技における整備必要性の整理

整備の必要性要素	内容	整備必要性のまとめ
1. 国民スポーツ大会における競技施設基準	<ul style="list-style-type: none">国スポのテニス競技施設基準では、少年種別（少年男女）についてハードコートの使用が推奨されている。そのため、開催県においてはハードコートによる試合運営が求められる傾向にあり、競技環境の整備が開催準備段階から重要な要件となる。	<p>左記の諸点より、</p> <ul style="list-style-type: none">● 国スポ開催対応● 競技者育成・強化● 地域振興・構想実現の観点から、 <p>県営庭球場におけるハードコート整備が強く求められる。</p>
2. 県内中部エリアにおけるハードコート不足	<ul style="list-style-type: none">現状、県内のテニス施設はオムニコート（砂入り人工芝）が多数を占め、中部エリアではハードコートの整備が極めて限られている。特に県営庭球場においては、ハードコートが皆無で、競技力向上や大会開催の面で制約が生じている。	
3. 利用者意向調査結果（競技者ニーズ）	<ul style="list-style-type: none">県実施の利用者意向調査において、10代テニス競技者を中心に「ハードコートでの練習機会の拡充」を求める意見が多数。特に全国大会出場経験者や競技志向層からは、「県外大会と同条件で練習できる環境が必要」との要望が強く、将来の競技力向上のためにもハードコート整備が不可欠とされている。	
4. 沖縄県スポーツアイランド構築との整合	<ul style="list-style-type: none">沖縄県では「スポーツアイランド沖縄」の構築を掲げ、競技スポーツ・観光・地域交流の融合による振興を推進している。ハードコート整備は、全国大会・合宿誘致等による交流人口の拡大・地域活性化に寄与し、スポーツアイランド構想の実践的事業として位置づけ可能である。	
5. 東海岸サンライズベルト構想との関連	<ul style="list-style-type: none">東海岸地域の発展を目指す「サンライズベルト構想」においても、スポーツ・レクリエーション施設の充実が重要施策の一つ。県営庭球場のハードコート化は、この構想における中核的なスポーツ拠点整備の一環として整合性が高い。	

テニス・ソフトテニスの競技開催に向けた改修パターン

- 両競技にて最も効果的な改修は県総B・C案ハード化と奥武山F案の組合せパターンである。

■テニス・ソフトテニス競技の機能強化に向けた改修パターン

◎…2点 ○…1点 △…0点 ×…-1点 推奨度 高…11以上 中…7~10 低…1~6

想定される整備パターン案			テニス競技							ソフトテニス競技							総得点	推奨
			国スポ			スポーツコンベンション		一般利用	得点	会場候補	国スポ			スポーツコンベンション		得点		
			施設基準 20面 (2会場24面内 主会場16面)	大会運営	競技力向上 (ハード要望)	合宿誘致	大会誘致 (16面以上要望)	利用利便性			施設基準 (16面 2会場可)	大会運営	競技力向上	合宿誘致	大会誘致 (16面以上要望)			
県総 庭球場	現状	県総16面オムニ 存続 ※レクドームオムニ8 面 ※コート間6m	△	△ (2会場開催)	×	×	×	○	-2	県総	◎	◎	◎	◎	◎	10	8	中
	A案	県総レクドーム8 面ハード化 ※16面オムニ維持	△	△ (2会場開催)	○ (練習のみ利用)	○ (屋内8面で効果)	×	○ (大会不可)			×	○ (多目的利用不可)	◎	◎	○ (一部オムニ減)			
	B案	県総16面ハード 化 ※レクドームオムニ維持	○	○ (2会場開催)	◎	◎	○ (大規模大会困難 レクドーム併用不可)	○ (サーフェス選択可)	○	○	◎	△ (漫湖と2会場 2会場開催)	○ (オムニ13面のみに)	△ (オムニ13面のみに)	△ (漫湖と2会場)	2	10	中
	C案	県総20面(4面増 設)ハード化 ※レクドームオムニ維持	◎	◎ (1会場で開催)	◎	◎	◎	○ (サーフェス選択可)	○	○	◎	◎	△ (漫湖と2会場 2会場開催)	△ (オムニ13面のみに)	△ (オムニ13面のみに)	△ (漫湖と2会場)	2	13
奥武山 庭球場	現状	奥武山13面オムニ ※近隣漫湖公園10面 ※コート間5m	×	×	×	×	×	○ (1会場開催不可)	-3	県総	◎	◎	◎	◎	◎	10	7	低
	D案	奥武山13面ハード化 (奥武山13+漫湖10)	△	×	◎	◎	×	○ (漫湖との併用不可)			△	◎	◎	◎	◎			
	E案	奥武山16面(3面増 設)のハード化	○	○ (2会場開催)	◎	◎	△ (漫湖公園との併用不可)	○ (大規模大会困難 コート間やや不足)	×	○ (駐車場減小) (漫湖との併用不可)	◎	◎	△ (南部オムニ減)	○ (南部オムニ減)	◎	7	12	高
	F案	奥武山16面(3面増 設)オムニ	○	△ (2会場開催)	×	×	×	○ (ハード推奨)	○ (駐車場減少)	○	◎	◎	◎	◎	◎	10	8	中
B・F混合案		県総16面ハード 化 ※レクドームオムニ維持	○	○ (2会場開催)	◎	◎	○ (大規模大会困難 レクドーム併用不可)	○ (サーフェス選択可)	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	10	18	最高

屋内化の必要性

- ハードコート整備と一部屋内化はセットで検討する必要がある。国スポ基準（3～4面屋内必須）、沖縄の気候特性、競技運営の安定性、利用者の利便性・安全性、競技力向上、合宿・大会誘致の観点からも必須要素。
- 特に沖縄では「屋外」のハードコートのみでは気象的制約が大きく稼働率が低下するため、少なくとも3～4面の屋内ハードコートを整備することが妥当と整理できる。

■ハードコート整備に伴う一部屋内化の必要性

観点	必要性の理由
国スポ施設基準	国スポの施設基準細則において「荒天時・皇室来場に備え、3～4面の屋内コートを確認すること」が明記されている。特に少年種別のハードコート推奨となっている。
地域特性(沖縄)	台風・強風・日射・高温という気候的制約が大きく、屋外のみでは稼働率が落ちる。屋内化によって「大会の安定開催」「利用率の確保」が可能。
競技運営	悪天候(台風・豪雨・強風)の多い沖縄では、試合中断リスクが高く、屋内化が大会運営の安定性を確保する。天候不良でも競技を継続できる「予備コート」として機能する。
利用者利便性	屋外ハードコートは日射・高温により夏場利用が制約されやすい。屋内コートを併設することで、合宿や一般利用者が安心して年間を通じて利用可能になる。
競技力向上	ハードコートはトップ大会(国際大会・全日本選手権等)の標準サーフェス。屋内ハードコートを備えることで、強化選手の継続的な練習環境が確保できる。
スポーツコンベンション誘致	屋内ハードコートは合宿誘致・プロ大会誘致の条件。海外選手や障がい者競技(車いすテニス等)では屋内環境の有無が会場選定の決め手となる。

(参考)基礎的気候データ(那覇・沖縄本島近辺)

項目	平年値・代表値	出典	備考
気温	年平均気温24.4度、最高気温日数138日 (30℃以上日数)、最低気温日数0日 (10℃未満) 猛暑日数8日、真夏日数116日	気象庁	(2024年データ) 熱暑対策の必要
湿度	年平均湿度76%	気象庁	蒸し暑さが増しているため、熱中症対策が必要
降水	年間降水量3069.0mm、年間降雨日数124日 (1mm以上日数)	気象庁・生活ガイド.com	亜熱帯気候における梅雨、台風期の降雨が多いため、雨天対策が必要




(参考)屋内化の事例(四日市テニスセンター)



資料：四日市市スポーツ協会ホームページより

奥武山公園庭球場の整備案の比較

■コート配置案

項目	3面増設 (図1)	駐車場側1面増設 (図2)	セルラー側1面増設 (図3)
配置図			
①配置案	添付図面参照	添付図面参照	添付図面参照
②概算工事費	約209,000,000円(税込み)	約115,000,000円(税込み)	約50,000,000円(税込み)
③駐車場 収容減少台数	42台減	3台増	増減0台
④園路 (迂回)	W = 2.0m (車椅子と車椅子のすれ違える最小幅1.8m 以上確保)	W = 2.0m (車椅子と車椅子のすれ違える最小幅1.8m 以上確保)	W = 2.0m (車椅子と車椅子のすれ違える最小幅1.8m 以上確保)

※どの案もテニスコートと多目的グラウンドの間を通る園路(ジョギングコース等)は、途切れる事となる。